

動物実験に関する検証結果報告書

国立大学法人 島根大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2025 年 3 月

2025 年 3 月 14 日

国立大学法人 島根大学

学長 大谷 浩 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会

理事長 小倉淳郎



対象機関：国立大学法人 島根大学

申請年月日：2024 年 7 月 26 日

訪問調査年月日：2024 年 11 月 25、26 日

調査員：久和 茂、佐加良英治、大林徹也

検証の総評

島根大学は、教育の拠点として伝統ある旧島根大学と旧島根医科大学が統合された総合大学で、7 学部、5 研究科からなる。動物実験は主に出雲キャンパスにある医学部及び松江キャンパスにある生物資源科学部で行われている。2 つのキャンパスには、環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に基づく実験動物の飼養保管施設が 4 か所設置され、動物実験は、文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」に則した「島根大学動物実験規則（以下「動物実験規則」という。）」の下で概ね適正に実施されている。自己点検・評価は毎年実施され、その結果が大学のホームページに掲載されている。飼養保管施設の掲示物や一部のマニュアル、取扱説明などは英文を併記しており、留学生等にも理解しやすい工夫がなされている。一方、動物実験計画書の審査体制の規則への明記、及び審査システムの省力化、並びに一部の飼養保管施設での実験動物の飼養保管の体制に改善の余地がある。動物実験は概ね支障なく実施されており、学長の責務の下、適切な動物実験の実施体制をさらに強化されたい。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果
☐ 基本指針に適合する機関内規程を定めている。
☒ 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。
☐ 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性
本年 4 月に実施された自己点検・評価では機関内規程である動物実験規則に 2 か所の問題点があると評価したが、それらの問題点は本年 7 月に実施された改正により解決されている。したがって、機関内規程について、「機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針に適合する機関内規程が定められている。」とする。
3) 検証の結果
☒ 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
☐ 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
☐ 機関内規程が定められていない。
4) 改善に向けた意見
特になし。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果
☐ 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。
☒ 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。
☐ 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検・評価の妥当性
前回の外部検証で、基本指針に則して動物実験委員会委員の構成（3 要件）について動物実験規則等に明記するよう勧告した。動物実験委員会が 3 要件の委員によって構成されているが、動物実験規則等には明記されていない。したがって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果
☐ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
☒ 動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。
☐ 動物実験委員会は設置されていない。
4) 改善に向けた意見
速やかに動物実験規則等に動物実験委員会の委員の構成（3 要件）について明記するとともに、

現在 1 名しかない「実験動物に関して優れた識見を有する」委員を増員することを検討されたい。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。
- ☐ 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 動物実験の実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

「動物実験計画承認申請書」「動物実験実施報告書」「飼養保管施設設置承認申請書」「実験室設置承認申請書」「施設等廃止承認申請書」の様式が整備されている。また、動物実験計画の変更は「動物実験計画承認申請書」を用いて申請することになっており、動物実験の実施体制は整っている。したがって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- ☐ 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 動物実験の実施体制が定められていない。

4) 改善に向けた意見

動物実験実施報告書に関しては、動物実験による成果が明確になるように書式を工夫されたい。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。
- ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。
- ☐ 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

「DNA 実験安全管理規則」「病原体等安全管理規則」「動物実験施設での化学物質の取り扱い」等の関連する規則等が制定されており、動物実験計画承認申請書にも関連する事項を記載することになっており、安全管理の視点からも審査できる体制となっている。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- ☐ 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- ☐ 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

概ね飼養保管基準に則した管理が行われているが、一部の飼養保管施設では飼養保管手順書、動物の逸走時の対応マニュアル及び地震・火災等の緊急時の対応マニュアルが整備されていない。また、松江キャンパスの一部の飼養保管施設の飼養保管設置承認書が確認できない。したがって、実験動物の飼養保管の体制について、「基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。」との自己点検・評価の結果であるが、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある」とする。

3) 検証の結果

- ☐ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

飼養保管手順書、動物の逸走時の対応マニュアル及び地震・火災等の緊急時の対応マニュアルが整備されていない飼養保管施設においては、これらを定め、飼養保管の体制を改善されたい。また、松江キャンパスの一部の飼養保管施設の飼養保管設置承認書について再確認されたい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

島根大学は 2015 年度に動物実験に関する外部検証を受検しており、今回が 2 回目である。前回の指摘事項は概ね改善されている。

Ⅱ. 実施状況

1. 動物実験委員会の活動状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験計画は実験動物部門職員による予備審査を経て、キャンパス動物実験専門委員会で審査され、最終的に全学の動物実験専門委員会で審査されている。また、議事録も保存されている。したがって、動物実験委員会の活動状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 動物実験委員会で、動物実験計画書を審査した過程が明確になるように記録することを検討されたい。全学、両キャンパスに動物実験専門委員会が設置され、その審査が電子メールベースで実施されており、作業負担は大きいと推察される。近年、ウェブシステムにより審査の省力化が実証されていることから、全学的な導入を検討されたい。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ☐ 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験計画書が学長により承認されている。また、全ての動物実験計画について動物実験実施報告書が提出され、必要に応じて学長からの改善の指示がなされている。したがって、動物実験の実施状況について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。」とする。
3) 検証の結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ☒ 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。 ☐ 該当する動物実験を行っていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 感染実験室、陰圧飼育装置、安全キャビネット、オートクレーブ等、必要な安全設備が整備されている。病原体等の取扱い及び遺伝子組換え実験が含まれる動物実験に関しては、それぞれ関係委員会から承認を受け、その後に動物実験計画の審査・承認が行われている。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ☒ 該当する動物実験が適正に実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。 ☐ 該当する動物実験は行われていない。
4) 改善に向けた意見 2 種省令に基づく表示は適正に行われているが、表示の文言等については再確認されたい。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ☐ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 出雲キャンパスで生じた管理区域外でのマウスの事故は、再教育や SOP の改定などの改善措置がとられているものの、実験動物部門としての飼育匹数の管理に関しては改善の余地がある。また、一部の飼養保管施設において、温湿度管理の記録が不十分であり、一部の動物種においてはケージの高さが懸念されるものもある。さらに、家畜の飼養衛生管理に関しても改善の余地がある。したがって、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ☐ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 実験動物部門としての飼育匹数の管理に関しては、今回のインシデントを踏まえ、現在より確認頻度を増やすことを検討されたい。また、飼養保管基準に基づき温湿度を記録し、ケージサイ

ズや衛生管理区域に関しては長期的視点で飼養保管状況の改善を検討されたい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

前回の外部検証で短期的及び長期的視点で両キャンパスの動物実験施設の一元的な維持管理について指摘したが、その検討が開始されている。一部の飼養保管施設では老朽化が見られるものの、適切に維持管理されている。したがって、施設等の維持管理の状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

動物実験委員会による飼養保管施設の調査、視察等は全ての飼養保管施設を対象として定期的に実施されたい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験実施者及び飼養者には、規則で定める動物実験に関する所定の内容を含めた教育訓練が実施されている。また、実験動物管理者は公私立大学実験動物施設協議会が実施した「実験動物管理者の教育訓練」を過去に受講している。したがって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

規則に、教育訓練を定期的に行う旨を明記することを検討されたい。また、自己点検・評価報告書等で教育訓練を利用者講習と称している部分があり、分かりづらいので、教育訓練と統一す

ることを検討されたい。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

毎年、動物実験に関する自己点検・評価が行われ、その結果を含めた動物実験の実施状況は大学のホームページで情報公開されている。したがって、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

出雲キャンパスに常駐する実験動物部門職員が地理的に離れた松江キャンパスの飼養保管施設を含めた4つの施設の実験動物管理者を兼務し、全学、両キャンパスの動物実験委員会審査、全学的な獣医学的ケアを担当しており、その負担は極めて重い。人員の拡充あるいは既存人材の育成など、その負担を軽減する対策を検討されたい。

教育訓練の教材や施設内の各種掲示物が日本語と英語で併記されていることは高く評価できる。